

財団法人茨城県勤労者余暇活用事業団

[法人の概要]

平成19年7月1日現在

代表者名	理事長 武藤 賢治 (非常勤)	県所管部課	商工労働部労働政策課	
所在地	水戸市笠原町978番6	電話番号	029-301-3635	
ホームページURL	www.yamizo.com	E-mailアドレス	info@yamizo.com	
資本金(基本財産)	4,000 千円	設立年月日	昭和49年12月6日	
主な出資者	出資順位	出資者名	出資額	出資比率
	1	茨城県	2,000 千円	50.0 %
	2	(社)茨城県労働者福祉協議会	1,000 千円	25.0 %
	3	茨城県市長会	500 千円	12.5 %
	4	茨城県町村会	500 千円	12.5 %
	5		千円	0.0 %
その他	団体	千円	0.0 %	
設立目的	勤労者及び公的年金加入者並びに公的年金受給権者の余暇活用と福祉の増進のため必要な事業を行うことを目的とする。			

[事業の概要]

事業名	平成19年度事業費	内容
事業1 「余暇活用センターやみぞ」運営事業	209,570 千円	福利厚生施設を持たない中小企業の勤労者等に低廉な価格により宿泊サービス等を提供する。
事業2	千円	
事業3	千円	

[組織]

7月1日現在の人数	平成17年			平成18年			平成19年		
	県派遣	県OB		県派遣	県OB		県派遣	県OB	
役員	常勤理事	0	0	0	0	0	0	0	0
	非常勤理事	8	0	0	8	0	0	8	0
	常勤監事	0	0	0	0	0	0	0	0
	非常勤監事	2	0	0	2	0	0	2	0
	計	10	0	0	10	0	0	10	0
職員	管理職	3	0	1	2	0	1	2	0
	一般職	9	0	0	8	0	0	8	0
	臨時職員	14	0	0	15	0	0	19	0
	嘱託職員	5	0	0	8	0	0	2	0
	計	31	0	1	33	0	1	31	0
当期常勤職員の年齢構成	20代以下	30代	40代	50代以上	合計	平均年齢	平均勤続年数		
		3	5	2	10	46歳 月	15年5月		

[収支の状況]

財団法人茨城県勤労者余暇活用事業団

(単位:千円)

区 分		平成16年度	平成17年度	平成18年度
収 支 の 状 況	収入合計	338,584	247,267	225,877
	事業収入	256,948	215,711	210,918
	事業外収入	81,636	31,556	14,959
	支出合計	331,983	234,523	206,864
	事業支出	238,574	203,612	191,731
	事業外支出	93,409	30,911	15,133
	うち管理費	131,652	126,408	117,316
	うち人件費	106,922	77,204	74,415
	当期収支差額	6,601	12,744	19,013
	正味財産増加額	0	0	0
正味財産減少額	0	0	0	
当期正味財産増減額	6,601	12,744	19,013	
前期繰越正味財産	△ 61,759	△ 55,158	△ 42,414	
期末正味財産	△ 55,158	△ 42,414	△ 23,401	
財 産 の 状 況	資産	72,964	24,401	29,751
	流動資産	70,874	22,921	28,380
	固定資産	2,090	1,480	1,371
	負債	128,122	66,815	53,152
	流動負債	116,067	60,425	45,769
	うち短期借入金	0	34,000	27,000
	固定負債	12,055	6,390	7,383
	うち長期借入金	0	0	0
正味財産	△ 55,158	△ 42,414	△ 23,401	

[財的関与の状況]

(単位:千円)

区 分		平成16年度	平成17年度	平成18年度
財 的 関 与 状 況	補助金	13,525	15,672	14,891
	委託金	45,640	0	0
	貸付金	34,000	34,000	34,000
	計	93,165	49,672	48,891
	財政的関与の割合(%)	0	0	0
	損失補償・債務保証			

[平成18年度の補助金等の目的・内容等]

支 出 項 目	目 的 ・ 内 容 ・ 効 果
補助金	余暇活用センターやみぞ施設等整備補助事業 福利厚生施設を持たない中小企業勤労者の余暇活用と福利向上を図るため 余暇活用センター「やみぞ」の冷凍施設更新工事, 食器洗浄機入替工事, 給 湯室ボイラー交換工事, 変電室・高圧コンデンサー改修工事, エレベーター機 械室アスベスト除去工事を行った。
委託金	
貸付金	勤労者余暇活用事業団貸付金 余暇活用センター「やみぞ」の円滑な運営のために必要な運転資金を貸し付け た。

[評点集計]

評価の視点	評価項目数	評点	満点	得点率
計画性	4	8	8	100.0%
目的適合性	5	4	14	28.6%
組織運営の適正性	4	8	8	100.0%
健全性	11	24	40	60.0%
効率性	9	11	32	34.4%
合計	33	55	102	53.9%

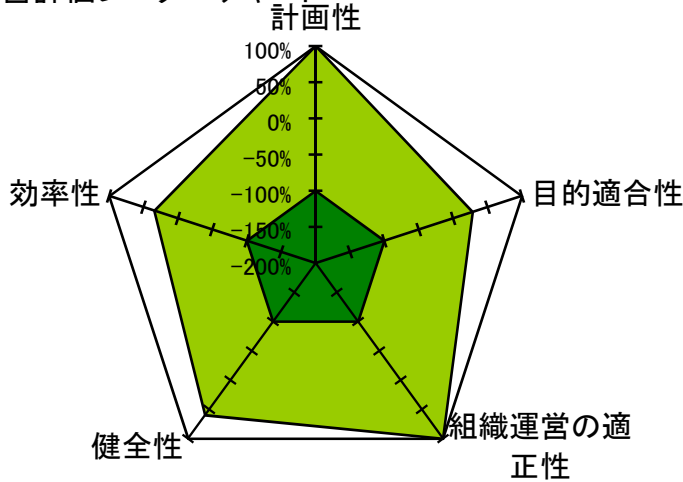
公益法人会計用

財団法人茨城県勤労者余暇活用事業団

警戒指標

流動比率

経営評価レーダーチャート



《評価の視点》

計画性	経営目的、経営方針が各種計画に反映され、計画・実行・見直しが行われているか
目的適合性	法人が行っている事業と当初の設立目的が適合しているか
組織運営の適正性	組織、人事、財務等の内部管理体制が適切に整備・運用され、かつ情報公開による透明性の確保が適切か
健全性	法人の財務体質が健全であるか、また、各事業の採算性がとれているか
効率性	組織の管理運営上における人的・物的な経営資源が有効活用されているか

各評価項目については、「出資法人等経営評価指標及び評価基準等」を参照

[法人の自己評価(経営概況、経営上の課題・対策等)]

計画性	目的適合性	組織運営の適正性	健全性	効率性
平成16年度に策定した中期経営改善計画に基づき事業を推進し、職員間においても経営改善に向けた意識の疎通を密にするなど計画的に事業を推進した。	福利厚生施設を持たない中小企業の勤労者等に低廉な価格でサービスを提供しており、その役割は大きい。	全職員に定期的に経営状況を知らせるとともに、関係者との会議を定期的に開催し、役職員が一丸となって運営に努めるなど適正に運営している。	累積欠損金が27,401千円となっており、その解消が課題となっているが、平成16・17・18年度決算においては黒字を計上し、改善してきている。	平成16年度に大幅な組織の合理化を図り、概ね効率的に運営している。
今後の事業展開の方向	(余暇活用センターやみぞ) 平成16年度に行った給与体系の見直し等による経費抑制の結果、今後の経営は黒字基調で推移する見通しとなった。今後は、平成19年度に策定した中期経営基本計画(平成19~21年度)を踏まえ、地域や施設の特性を活かした新たな営業戦略の展開による売上げ向上や経費の削減に努め、累積欠損金の早期解消を図る。			

[法人を担当する課の意見]

		計画性	目的適合性	組織運営の適正性	健全性	効率性
		中期経営改善計画等に沿って概ね適正に運営されている。	設立当初の目的に添って概ね適正に運営されている。	臨時職員(パート)の比率が高いことから常勤職員中の管理職の比率がやや高い数値となっているが、管理職も進んで一般職員の業務をサポートするなど概ね適正に運営されている。	平成16・17・18年度決算においては黒字を計上し、経営改善のきざしが見え始めているが、累積欠損金の削減に向けて今後とも更なる経営努力の継続が必要である。	経営改善の結果、効率的な運営体制の基盤は整ったが、今後はサービスの質の低下を招かぬよう配慮しつつ効率的な運営を行う必要がある。
改革 工程 表等 の 取 組 状 況	取組内容等	<p>累積欠損金の削減を最優先課題とし、そのための取組等を以下のとおりとする。</p> <p>1 ニーズに対応したサービスの提供 ①グランドゴルフの活用 ②宿泊利用補助契約等の拡大 ③各年代等に対応したパック商品の企画開発</p> <p>2 経費抑制に向けた取組 人件費の抑制に努める他、料理の原材料の効率的な仕入れや、節電等の全般的な経費の削減に努める。</p> <p>3 中期経営基本計画の推進 平成19年度から平成21年度までの3年間を期間とする中期経営基本計画を推進する。</p> <p>4 財団の及び施設のあり方に関する抜本的な検討については、累積欠損金の削減状況や経営状況の実態を踏まえながら、検討を行う。</p>				
		平成18年度	平成19年度	平成20年度		
	計	累積欠損金の削減 (平成18年度目標額: △31,641千円)	累積欠損金の削減 (平成19年度目標額: △17,401千円)	累積欠損金の削減 (平成20年度目標額: △7,401千円)		
	取組状況	累積欠損金の削減 (平成18年度実績額: △27,401千円)	-	-		
法人担当課の意見		<p>第2次中期経営改善計画に沿った「人件費の見直し」「組織の合理化」「原材料費の抑制」等の経営努力の結果、平成16・17・18年度と黒字を計上し、経営改善の成果が現れ始めている。しかしながら、平成18年度末時点で27,401千円の累積欠損金が残されていることから、当該法人としては、平日利用者の確保等により、さらなる利用者増加を図り、累積欠損金の削減に向けて努力を重ねていく必要がある。</p>				

[総合評価]

<p>取組みを強化すべき視点</p>	<p> </p>
<p>総合的所見等</p>	<p> </p> <p>3期連続経常利益を計上、累積欠損金を27百万円まで縮減し中期経営改善計画の目標を達成したほか、前年度の比較においても、宿泊者は377名減少するも休憩利用者が1,605名増加したことは、地域性を考慮すると評価できる。</p> <p>今後は、新たな中期経営基本計画に基づき、累積損失を解消するための更なる努力を求める。特に、県は毎年継続して修繕費相当額を補助金として負担しているが、施設の老朽化に対する抜本的対策及び公益法人改革への対応を図るため、新計画に掲げる県関係各課による検討会において組織及び施設のあり方・方向性について検討し、その対策に着手すべきである。</p>

<p>総合的所見等に係る対応</p>	<p>中期経営基本計画(計画期間 平成19~21年度)に基づき、売上の確保や経費削減の進行管理を的確に行うなど、累積損失の早期一掃に向けさらなる経営努力を進めるよう指導していく。</p> <p>具体的には、グランドゴルフの活用、宿泊利用補助契約等の拡大、各年代に対応したパック商品の企画開発に取り組み、利用者のニーズに応じたサービスの提供について引き続き推進する。</p> <p>県としては、有識者や庁内関係各課で構成する「やみぞあり方検討会」を平成19年8月に立ち上げたところであり、施設の老朽化や公益法人改革などへの対応を図るため、組織及び施設のあり方・方向性について検討を進めていく。</p>
--------------------	---

< 財団法人茨城県勤労者余暇活用事業団 から県民のみなさまへ >

余暇活用センター「やみぞ」では、奥久慈しゃもやこんにやくなど地元産の素材を利用した料理とともに、りんご風呂、檜アロマ風呂、しょうぶ風呂など季節で変わる大浴場などをご用意しております。まごころ込めたおもてなしで従業員一同、皆様のお越しをお待ちしております。

平成20年2月 理事長 武藤 賢治